

にはませんこうじょう
新居浜選鉱場
ほしごええきしゃ
星越駅舎



現在の新居浜選鉱場

傘寿を迎え
今も新居浜を支える雄姿

にはませんこうじょう
新居浜選鉱場は、大正14年(1925)4月に竣工しました。

別子銅山では、採掘場が下方に向かうにつれ、鉱石の中に含まれる銅の割合が少なくなってきました。

そこで、これら低品位の鉱石(貧鉱と呼ぶ)からも製錬を可能とするために、当時135万円の費用をかけて建設されました。

さらに、大正15年9月には、選鉱操業の合理化のため、東平の選鉱場が新居浜選鉱場に移設、選鉱処理能力が1日当たり900トンに増強されることとなり、別子銅山に大きく貢献しました。

ほしごええき
星越駅は、新居浜選鉱場が竣工されるのにもない、大正14年に設置されました。

昭和4年11月には、山田社宅の建設開始に合わせるように、住友鉱山鉄道が専用鉄道から一般客も利用可能な地方鉄道となり、星越駅は山田社宅の玄関口となり、新居浜に通勤族が登場しました。



現在の星越駅舎



現在の星越トンネル

レトロ感
漂う外灯



星越駅から西へ200メートル程の地点に星越トンネルがあります。

別子鉱山鉄道下部線のトンネルして明治26年(1893)に建設されました。

星越山を抜けて惣開へ物資運搬を行うための重要なトンネルです。長さは約110メートルあります。

新居浜選鉱場は現在も稼動中であり、また星越駅舎も当時のままの姿で共に80年の時を越え大正末期の趣きを今に伝えていきます。

